

拝啓

唐突なお手紙を差し上げる失礼、お許しください。

私どもは、この十四日夜以来、熊本県を中心に続いている地震が長期化し、甚大な被害が出ていることを、新聞やテレビなどを通して連日目や耳にし、こころを痛めております。

ましてや日々、現地で厳しい生活を強いられておられる先生方のご苦勞・ご心勞はいかほどかと拝察いたします。

すでにボランティアの方々の支援活動も始まっているようですが、このような時に、私たち東京学芸大学辟雍会でも微力ながら何かお役に立つことができないかと考え、一筆取らせていただきました。つきましては、辟雍会熊本支部の先生方のご近況や私どもに対するご要望をお知らせいただきたく、お願い申し上げます。

なお、先生におかれましては何かとお忙しいことと存じますので、この手紙が先生のお手元に届いた後に、こちらから電話をさせていただきたいと思っております。どうか、よろしくお願い申し上げます。

最後に、先生方がお元気でこの苦境を乗り越えられますことをこころより祈念しております。

敬具

平成二十八年四月十八日

東京学芸大学辟雍会会長

馬 淵 貞 利

辟雍会熊本県支部長

藤 田 まり子 様